

会 議 録

件 名	恋野地区 地域説明会・意見交換会
日 時	令和6年8月3日（土）午後7時00分から午後9時05分
場 所	恋野地区公民館
参加者	恋野地区 24名、他地区 2名 今田教育長、岡教育部長、阪口参事、丸山教育総務課長、大谷学校教育課長 簗下教育委員、東学校再編推進係長、東川、中山

今田教育長挨拶、東学校再編推進係長から資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。なお、出席した保護者には、説明会終了後、意見等を記入できる用紙を配布しました。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1. 初めて参加させていただいたんですけれども、国が30年ほど前から少子化と言い、子供の数、人口も減っているとかは言っていますけど、8ページのところには2050年まで、グラフが生徒の数も減っていくとなっているけれども橋本市では移住してくる方のために何とかする、人口を増加させようとか生徒数を上げようという活動はされているのでしょうか。橋本市に今、住んでいないんですけれども、橋本市に引越しも考えているので、孫が生まれたときのことを考えると、学校があってくれた方が助かるので質問させていただきました。

（教育委員会）

橋本市でも、移住定住という取組は進めていまして、例えば、大阪や東京でやっている移住相談会に参加してPRをしてくるとか、移住定住される方に補助金の制度を作ったりとか、空き家のお試しの制度を作ったりとか、そういった形で移住定住策を進めているところです。人口を増やす取組というのは、地道ですけどもやっています。

あと、子育て支援策としまして、子供の医療費、もし子供が怪我したり病気したときの医療費を橋本市は負担しています。少し前までは、所得制限はあったんですけど、この10月から全ての市内のお子様がそうなったときに、公費で個人負担分を負担しているというのがございます。

2. 中道区に住んでいます。まず、恋野小学校区と隅田小学校の統合ですけど、要するに
対等合併ちゅうか、両方の統合になるかと思うんですが、先ほどご説明では現在の隅田小学校を新しい校舎として使われるということですが、統合された場合の校章、校歌をいつ頃決められるんか。どういった方向で決められるんか。ということを心配されている方がおられます。

それと、恋野小が結局、隅田小へとなりますと現在の恋野小学校の校舎の活用方法なんです、全国でもこういう統合なり、進められた場合に校舎の後の使い方ですね、例えば店舗を入れられる。地区外の業者も含めてですけれども、そういった校舎の活用方法をどのように考えられているのか。それから、土日の学校の休みのときにはグラウンドを開放されて、野球とかされている児童の方がおられるわけですが、その辺統合された場合のグラウンドの使用制限、そういったところをどこまで考えられているのか。その辺の流れについて確認をさせてください。

(教育委員会)

まず、この隅田小学校と恋野小学校の学校再編はいわゆる対等合併のようなイメージを持っていたかと思いますが。お互いの学校のいいところを引き継いで、場所は隅田小学校で考えているんですけれども、新しい学校を作るというイメージを持っていたかと思いますが。その場合に、校歌とか校章のお話ありましたけども、今、申し上げているのは教育委員会の基本方針です。この基本方針が橋本市としての計画になった場合に、計画を定めてから統合準備会というのを設けまして、例えば学校の名前とか、校歌とか、校章ですね、そういったのを一緒に考えていくスタンスをとります。

それから、活用方法ですけども、学校施設につきましては地元の意見をお聞きしながら、有効活用に努めていきたいと考えています。やはり、民間活用も含めて幅広くどのような活動が良いのかも含めて、公共施設でどう残していくのか。どういったものかいいのかわかりませんが地元の方の意見をお聞きして、考えていきたいと思っています。それからグラウンドの対応についても同様です。今は少年野球とかで、サッカーとかで使ってる学校がありますけども、グラウンドの使用につきましても、有効活用をどのようにしていくのかを考えていきたいと思っています。

3. 橋本市の人口動態、50年までずっと下がってるグラフを出してくれとんやけど、この間、市として何もしないのかいと。全国のどこやったら、有名企業を誘致して、人口増えていくようなところもできとる。例えば恋野なんかね、農業振興地域なっていまして。新しい家を作ろうとするとハードル高いんですよ。こういうところに人口を増やそうとすると、ある地区、例えば、すでに農業放棄地みたいなのたくさん出ていると思うんですよ。そういうところをちょっとした4、5件の住宅を建てるようなところを、市が主体になって作っていくとか、そういうことをしないと人口増えてきませんよ。このままだと、空き家と耕作放棄地が増えてくるんです。そんなところに人口が増えるわけない。そこで家建てようと思ったら、浄化槽を引っ張れないと。なんでと言うたら、市道の横に付いているのは、農業水路と市道の水路が兼用している。ただこれは浄化槽を流すのも大変です。そういう問題からして、1からやっていかなと、2050年になったら人口が2万人、4万人ほぼ合併前ぐらいに戻ってしまう。それまで指くわえて待っとんかいっちゃん話です。こ

のグラフ見とったら市は何もせえへんねやなという思いがあるんで、それはぜひ教育委員会だけで決める問題違うけども、頑張っで欲しい。

それとデジタル、もちろんデジタル通貨の話もありますけども、人間にはデジタル求めてやっていくのもあるけども、デジタル無しで生活する権利も当然あると思うんですよ。だからそんな中で、原点に回帰して、富貴に逆に移住されて生活して、やっと一息ついた家族もおられるし、そういうことも踏まえて学校を考えて欲しい。

それと、橋本市の学校を作ってるのを見ましたら、まず高野口中学校をなんであんなところ作ってんと。高野口地区でいろいろ、何か不平が出ているみたいですし。橋本市の西部中学は何やってんのよと。運動場あります。100mを直線で取れるような運動場をほったらかしにして、現在、何も使っていませんよ。名目はある国の学校になっていますけども、生徒見たことはないです。そういう使い方を恋野小学校されたら困るなど。それやったらもう隅田にはっきり吸収ですわ。どう考えたって隅田小になってしまうと。校歌も学校名もおそらくそのままの隅田小になってしまうでしょう。

だけど、私はそんなけつたいな使い方されるんやったら、恋野小学校も利用できるような学校を作ったらどないよと。例えば恋野小学校のプールまだまだ使えます。今、すみだこども園がプール使っているでしょ。ああいう使い方を考えていただいて、こういうときにはここを使うとか、校庭もあるし。だからそういうことを考えていただかないと、私の知る限りでは、多様性と言われるけども、いろいろ問題あって逆に、少数の学校に行かれる方もたくさんおられます。逆にそういう方たちの例えばですけども、橋本市の中からであれば恋野小学校これますよと、恋野小学校の人は恋野小学校行ってもええけども、隅田小へ行ってもいいし、私は、だけでも少数の方がいいんですというのは、恋野小へ行きますよと、そんな学校を作ってもいいん違うかなと思ってます。

そういうことも考えていただきたいのと、このグラフは、もう下降線たどる一方のグラフ出ていますんで、これ見たら、市は何も先ほど意見ありましたけど、少子化対策せえへんのかなと、魅力あるまちづくりせえへんのかというようなイメージがあります。

どっかで歯止めしていただきたいと思います。

(教育委員会)

先ほどのご質問にもありましたけども移住定住策、企業誘致をやっています。何とか歯止めをかけるような取組をやっているわけなんですけども、ここのグラフが逆転するようなホームランといいましょうか、なかなか移住定住策で出にくいものでして、地道に取り組んでいくとしか言いようがないようなことです。その辺ご理解いただけたと思います。また、農業振興地域とか、いろんな規制の面は、行政が考えなければならぬでありましたら、市全体としてまた考えていかなければならないと思っています。今日ご意見をこういった形でいただきましたので、いろいろ考えていきたいと思っています。

4. 恋野小学校学校運営協議会の評議員をしております。私、10年評議員をさせていただいているんですけども、24ページの取り組む上での留意点。いわゆる2番3番4番5番に関して、10年間取り組んでくる中で、学校運営協議会と共育コミュニティの連携が年度によって難しいこととかもあるし、地域との連携、コロナのこともあったんで、なかなか途絶えてしまったりしたこともあります。その安全対策に関しても、恋野地区は恋野橋南詰めの交差点、ずっと信号をつけて欲しい、子供たちの登下校のためにつけて欲しいと要望出しているんですけどなかなか実現してない状況。少子化が進んでいく中でこれはもうどうしても避けて通れないことですけども、例えば、統合がされることによって、こういったことが改善されるのであれば、そういう点からしてみれば、プラスの面もあるのかとは思っています。ただ、この会に参加させてもらって一番私感じたのは、娘2人大学生なんですけども、今日こういった説明会があるから、あなたたちが、言えば当事者、言うたら5年後に結婚して子供生まれていったら、それこそ10年以内に自分たちの子供を正しくその統廃合とかがあったときの小学校に通わせることになるわけですね。であるからこそやはりこういった世代に対して細やかに説明する。

地域の説明会、保護者向けの説明会も大事なんですけども、実際に当事者となる世代に対してのアプローチというんですか、うちらの子供も、私が3年後にもしかしたら学校が無くなるかもしれないと聞いて初めて「え、そうなん」みたいな感じだったんですよね。

多分、これぐらいの世代は、ほとんどこうだと思います。実際、まだ学生生活していますしね。まだまだ結婚して、子育てしてというところまでは、思いはいつてないと思うんですけども。だからこそ、こういった資料を、やっぱり目に触れさせる機会をしっかりと整えてもらって、現状こういった危機感があるんだよということを知らしめる。その上で、こういった取組に関しての留意点をしっかりと整えていくから安心して欲しいとか、ということをもう早い段階から、こういう世代に周知していかないと、「わ、もう無くなるんや」「もうこんななんや」「もうそれやったら帰ってきてもしやあないな」とか、この区この地域に住んでもしやあないから、もうほんなら大阪へ住もうかとなっていく可能性は非常に高いと思うんです。

だからこそ、こういう場において、もっと若い世代がそういう話を聞く機会を、積極的に作り上げて欲しいと思う。たとえば言うなら、成人式のときに、若者が集まるときにそういう場を設けるであるとか。成人式の案内で、市からはがきが来るということは、そういう子に対して追跡できているということですから、こういった会議、何ていうんすかね、場がありますよということを積極的に周知していただくような取組を、まずはしていただきたい。やっぱこの世代の意見、こうして欲しいとか、ああして欲しいとか、やっぱ汲み上げることっていうのがやっぱり一番大切だと思います。

もう、僕らの世代は50過ぎているんで、そうなんや無くなるんや、もうしやあないなあってなってしまうたら終わっちゃうんで、やっぱりそれより大事なことは、まさしく対象となる世代にアプローチして欲しいと思います。以上です。

(教育委員会)

まず、長年いろいろ学校のことをお世話いただきありがとうございます。本当に恋野小学校は、子供の数は少なくても、本当に地域に支えられてきたという実情が長年あってもうそれはもう運動会とかでもそうなんですけど、卒業式とかも全てなんですけど、皆さんが支えてくださいました。学校の先生も、皆様方の後ろ盾があって学校運営ができたと思っています。地域にこうして出向きますと、いろんな特徴といいますか、ご意見があって、新興住宅の方とは、また、こういう昔から住んでいただいているのと違うんですけれど、やはり支えられてきたというのは、私たちがずっと思っていることです。

その中で大事にしていかないといけないというところで、次の世代についてなんですけど、できれば、こういう地域説明会に回覧板とかで方針の説明を伝えさせてもらった時にお父さんがおっしゃられたようにお声掛けしていただいて、来てもらえたら非常にありがたいと思います。本当に、この少子化は、国よりも橋本市の方がどんどん加速度的に子供の数が減っているんですけれど、いろんな支援を打ったとしても、ここはこの角度をどれだけ保てるかというところがあって、今回は学校再編の話をさせてもらったんですけれど、やはりこれからご結婚されて、子供さん授かれて、できれば橋本市で子育てをしていただく方に、こういう意見を一緒に共有させてもらったら非常にありがたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。貴重なご意見ありがとうございます。

5-1. 2点をお伺いします。まず24ページのところで、下のところ⑥の①で通学条件ということで、バスの運行改善を図りますと書いていて、小学校が3キロから2キロに変わる。隅田小学校を基点に考えたときに、この恋野地区は2キロと言ったらどこまで届くんでしょうか。

もう1つ、理解がおよんでなかったんで申し訳ないんですけど、教育委員会で基本方針と言われて、計画というお話があったんですけども、計画は橋本市が作るという、そういう考え方でしょうか。

(教育委員会)

この距離の2キロ程度と書いているんですけども、これは純粋に線を引くような形というよりかは、地域を全体として考えて、例えば地域広いですので、その地域の一部が2キロ程度以上かかっているところがあれば、その地域全体を対象とするような考え方です。純粋な距離が近い遠いで、同じ地区内でバス乗れる子、乗れない子になってしまうと少し不公平ですので、地域として2キロ程度あればバスに乗っていただけるような考え方です。実際ちょっと歩いてあるんですけど、隅田小学校と例えば恋野小学校、実際歩いて、距離を測ると大体1.7か8キロぐらいになるんですけども、でも恋野のエリアというのは結構広いです。それから、赤塚・上田・中道等それぞれ広いです。一概に同じ恋野の中でも、2キロ未満の方とやはり2キロ以上の方もおられるので、もう恋野区は全て、スクー

ルバスに乗っていただく。赤塚区もスクールバスに乗っていただく、そういう考え方を持っています。全てのエリアが含まれてくるのかなというふうに考えています。

2点目の計画のことなんですけど、計画は橋本市が策定いたします。

5-2. 今の計画のことで、ちょっと先ほど区長さんとかがお話されたところとかぶるところがあるんですけども、集団で教育するのはすごく理解ができます。やっぱり少ないより大きい中で揉まれる方がいいという、それは理解ができます。ただですね、市で計画を作るとなったときには、学校だけではなくて、やっぱりそういったこういう地域のことも含めて考えていただけるのかなというふうに期待しているところなんですけれども。

先ほどお話あったみたいに、空き地が、農地が荒れてくる、空き家が増えてくるのを考えたときに、どうしても小学校がなくなると、若い人がその地域に住まなくなる。そうなってくると、若い人がどうしても住んでくれなくなるので、結果、先々考えたときには、今以上に農地が荒れて空き家が増える、そういったところが出てくると思いますので、教育方針だけだったら、理解はできるんですけども、やっぱり地域のことも含めて考えたときには、何らかの形で、例えば集団では馴染めにくい、少数であつたら教育を受けられるような子のための学校として、橋本市全体のそういった学校として例えば恋野に学校を残していただくとか、そういったところも、何か考えていただけないのかというふうに思ったりもします。実現できる、できないとかわからないんですけども、そういったところも考えていただけたらと思います。

あと、やっぱり、子育て施策の話もしていただいていたんですけども、こうやって学校を減らしていくのが、橋本市全体で起こったときに、僕ら恋野地区のことを考えていましたけど、やっぱり橋本市全体見たときにも、橋本市の教育は、だんだん衰退しているんだなというふうに、若い世代の子たちは思うかもしれないと思います。

そういったときに、長い目で見たら、やっぱ橋本市全体の人口は増えていかないんじゃないかなあと思います。繰り返しになりますけれども教育方針だけではなくて、橋本市の計画として考えていただけるんでしたら、やはり地域のことであったり、これからの人口増加、そういったところも含めて考えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(教育長)

ありがとうございます。先ほど区長さんがおっしゃられたこととも関係すると思うんですけども、小規模特認校制度という制度があります。小さい学校なのですが、その地域の人たちだけが通うのではなく、市内どこからでも来ていいですよ、というような学校の制度があります。地域の人たちを中心に検討委員会の中でも、この小規模特認校制度についても視野に入れて考えてくれたらという意見もいただいています。この考え方については、教育委員会がやりましょうだけでは、なかなか上手くいかないところがあります。実際に、県内でも何校かやっているところがあるんですけども、やはり特徴としては、地域の方々のご理解がすごく大事になってきます。いろんなところから来られるというこ

とになりますので、そういった子供たちが来る中で、地域の人たちも一緒に盛り上げていきましょうという、そういったご支援をいただかないとこの制度自身がなかなかうまくいかない。ご意見としていただきましたが、ここの場で恋野についてはそれでいきましょうという、そういうわけにいかないと思うんですけども。

そういったご意見をいただく中で、自分たちとしてもどうしていくかという、これから考えていく中の検討事項には入れていけたらと思います。これも学校の活用の1つの方法であると思います。

集団について、集団の中で子供たちを教育していく良さというのを言っていたんですけども、私たちも子供たちが小さいときは、個別に対応していったら丁寧な教育とか保育とかってできると思うんです。けれども、本当にそれだけでいいのかというと、やはり、集団の中で揉まれていくところ、そしてその中でしか学んでいけないようなところというのは、集団の人数というのは絶対必要になってくる。そういう考え方に基づいているところはあります。そしたらその人数はどれぐらいが必要なんだということもあるんですけども、一定の数は必要かなと考えています。

それと、地域全体のことを考えてほしいということなんですけれども、私たち教育委員会として、この地域全体のことを考えて取り組む最大の売りにはできる場所というのは、教育のあり方というところだと思うんです。どういった教育を展開していくのかということ伝えていく中で、それを評価していただいて来てもらえるような、そんな教育をしていくことができたらしと思っています。

私自身も今はこの職ですけども、それまではあやの台小学校の校長をしていたり、他の市内の学校でも勤めていました。その中で、橋本市のこういった取組というのを、良いと思ってこちらへ変わってきましたという保護者の方々に出会っているんです。それはどんなところが良いと言ってくれているかというと、皆さんのお力を借りている共育コミュニティであったり、コミュニティスクールの取組というのが、地域みんなで子供たちを育てていこうという、その取組というのが、すごく良いと思ってこちらへ来たんですと言ってくれた方々が多かった印象を持っています。これは、これからも私たちとして取り組んでいきたいと思ひますし、この中にも日々その取組に参画していただいて、協力いただいている方もおられます。本当にありがたく思っています。

一定の再編が進む中で、教育をどう充実させていくかというのは、今ここで、これをします、あれをしますというようなことは、予算化されていない中で話はしにくいんですけども、やっぱり国が示しているような学びのあり方をしようと思ったら今の教室のような形ではなく、未来型志向の教室を作りながら、そういったところで、子供たちに教育を受けてもらえるような環境を作っていこうと、ちょっと漠然とした言い方になりますけれども、そういったことは私たちとしても考えていくことができたらしと思っています。

6. 3点あります。今回、回覧板で、これ募集かけてくれたと思うんですけども、回覧板は若い世代だとスルーすることが多いです。お年寄りは大体見てくれるんですけども、だから若い人、若いご夫婦に来ていただこうと思ったら、ぜひ対象地区だけでも個別に案内を配っていただきたいなと思うのと、それとね、ちょっとこれ、皆さん誤解してもらったら困ると思うのは、小規模特認校制度、それは私も聞いているんですけども、これええなやろうかというときに1個問題があります。恋野の人でそんな特認校、もしかしたらそのクラス3人ぐらいしかいない可能性があるんですよ。そこへ行くんやったら隅田小へ行きたいという子供がおったときに、その地域の方は、小規模特認校へ行かなアカンことになるんで、その問題があるんですよ。だから私は特認校という言い方をしなかったんですけど、それは、恋野の子供は、隅田小へ行くこともできるし、恋野小へ行くこともできる。これやったら公平なんですけども、特認校制度は、恋野の方は恋野小学校に行ってくださいよというのがこの制度なんです。だから、そのの違いがある。

よく考えていただいて、賛成するかどうか決めていただきたいなと思いましたんで、それだけ言わせてもらいます。

(教育長)

ありがとうございます。本当に地域の方のご理解がなかったらできないところなので、私たちだけでやりますよ、そういう意見があるのでやりますよ、というわけにいかないの、そのところは丁寧に対応させていただきたいと思います。

7. 信号機のことが出ましたのでちょっと補足というか、確認したことをちょっと報告をさせていただきたいんですが、ちょっと最近事故があったようです。あその信号機をつけて欲しいと常に要望があったようなんですけど、学校の話と違ってごめんなさい。今信号機の話が出たので。交通センターの方からですね、新設道路にしか基本つけませんという方針だそうです。1時間に300台未満のところはつける方針がまずないという方針だということはあるということのようです。それでも要望があったのと、最近なって事故が多発していることがあるので、いろいろ確認させていただいて、来年度の予算に計上する予定ですという返答でいただいた次第です。そういったことがちょっと先にお話がありましたので、それ報告したいということとです。

こちらから提案というか、子供が減るという話でちょっと意見あるんですが、今日ちょっと河内長野の教師の方と先ほどまでも一緒にしゃべっていたんですね。大阪の「はつが野」というところで、子供のまちに特化する施策を打ち出して、子供が非常に増えているという事例があるようです。その中でですね、仕事とか、行動、子供のまちづくりに特化する施策を打ち出して、子供が非常に増えている。働く方も仕事も増えているし、その地区で雇用が生み出されているようなことが実際あるようなんです。どんな感じかは、ちょっと話に聞いただけなんでわからないんですが、明石市なんかでも増えていますよね。増えてご存じの方はご存じだと思うんですが、やり方によっては子供たちが増えている事

例はあると思うので、無理だというふうにおっしゃらないで、うまくいっているケースを視察なり、モデルケースとして見に行ってください、真似できるところは真似をしていくというようなことはできないかなというふうにはちょっと思います。なんか、緩やかにとかそういうなんか感じのことではなくて、大きく打って出るといったようなことが可能、できるかどうかはちょっとわかりませんが、うまくいっているケースを何か参考にさせていただきたいというふうに思っています。はつが野なんかも非常にうまくいっている、明石市なんかも非常に増えていますよね。多分ご存じの方は、そういったところを、何かいいところをスポイトしていくような形で、施策打っていただけたらなというふうにちょっと思いましたので、ご意見したいと思います。

(教育委員会)

いただいたご意見をちょっと教育委員会だけでは大きすぎる話になってくるので、総合政策部であったり、そういったところに報告をさせていただいて、地域説明会でこういう意見いただいたというのを報告して議論させてもらいたいと思います。ありがとうございます。

8-1. 皆さんいろんなことをもうすっかり言い尽くすほど言い尽くしてくださったのかなと思うんですけども。この隅田小学校と恋野小学校を統合してということでお話をいただいていますけども、クラス替えができるような、複数学級になるような人数にするのが目的というふうに書かれてあったと思うんですけども、そういう答弁が議会の方であったりもしてたんように思うんですが、今のままだと、隅田小と恋野小が寄っただけでは2つにクラスを割れないと思うんですが、40何人か以上にはなっていないと思うんです。この1年生を考えたときでも、無理だと思うんですね。それが合併したからといって、そんな状態なので1クラスのままとということになると、今、恋野小学校だったら複式学級で先生の目が行き届きすぎるやんというような感じで言われる方もあるかもしれませんが、十分に子供に目をかけて手をかけてやっていけているような現状から、一挙に多数の子供を1人の先生が見るといような状況に追い込まれるのかなという懸念を私はしています。そうなってくると子供に対して、結局、質が落ちていくんじゃないかなという思いが残ってくるんです。紀ノ光台を隅田小に引っ張ってくるようなことも、どこかで聞いたような気がするんですけども、それがあればしばらくはいけるよというふうに答弁されるかもしれませんが、それも結局は10年ほどの問題になるのかなというような気持ちもしたりするんですが、その10年ほどの間は、いっぱいいっぱいの40人学級みたいになってしまいうやったら、子供たちにはちょっと、質の確保をした授業というのは、しんどいかなと思います。

少人数でいる方が、いいことよりも、よくないことの方が多いいよというような先ほどからのお話でしたけども、今の時代インターネットを使うことで、遠くの学校であっても、隣にいるような形で授業ができるというようなことも言われていますし、そこまで技術を

学校側が進めていかんとあかんわけなんですけども、でもそういうような事実が、今の社会にできていくようになっていくのに、やっぱりあえて一緒にせなあかんのよというのにはちょっと、今、自分の子供を学校に通わしているんやったら微妙やなって。せめてその小学校の6年間を、その子一人一人がより大きく中身を膨らして、成長していける6年間として、中学校の3年間については、ええ加減しっかりしたから、ちょっと大きいとこで揉まれりよというような気持ちもあるので、蒸し返すようなことなんですけども、ちょっとお話をさせていただきました。ありがとうございます。

(教育委員会)

学校教育課でも、この人数のことについては非常にいろいろと考えています。その中でおっしゃられたクラス替えのことなんですけれども、現在、国の方で定められている1学級の定数というのが35名になっています。この35名1学級で、ここに教員が1名配置されるわけです。ですから、そこまでは先生1人に35名と、36人になったら2つのクラスに分かれて先生が2人配置される仕組みになっています。これも国の制度になっているわけなんです。その中で、恋野小学校と隅田小学校が一緒になった場合に、2学級できるかどうかということなんですけど、今年度それから来年度、そして令和12年度まで試算していった中では、それぞれの学年は基本的には2学級なんです。ただ、現在1年生の学年です、ここはどうしても1学級になってしまう。それから、令和10年度になると、1クラスの学年が3つ出てくるとか、そんな計算をしているところです。あくまでも今の人数のままでいくとそういう学級も出てくるようになります。そのような中で、1学級35人いっぱいの中で1人の先生がついて、きめ細やかにできるかどうかということ、今の恋野小学校と比べるとできるかなということにはなってこようかとは思いますが、その分、先生方には研修を積んでいただいて、実際にはちょっとでもスキルを上げていただくような指導をしています。ただ、正直言って、そのあたりの恋野小学校のような完璧に一人一人につききりであるというのはなかなか難しいというのは正直あります。その中で、先生がつくとともに、友達同士、仲間同士で学び合うということ、それから保護者の皆さんの力、地域の皆さんの力もいただきながら、子供たちに関わっていただけたらと思っています。

特別支援学級についても同様です。特別支援学級につきましては、1学級の上限が8名になっています。これはそれぞれ特性によって分かれてはいるんですけれども、その特性で分けて1学級8名が上限になっているわけなんです。現在も市内の小学校では、8名のいっぱいいっぱいの特別支援学級もごございます。そこに、担任の先生1人がついてやっているわけなんですけれども、支援学校の先生、大変苦勞されています。でも、交流学級の先生であったり、それから、他の先生いわゆる加配で配置していただいた先生なんかと一緒に1つの学級に複数の先生が入ったりして、今は対応しているという状況です。その中で、子供たちを育てているということなので、今の恋野小学校の良さ、これ先ほど少ない学級、少ない人数の方が何か悪いというふうに取りがちな、ちょっと資料が申し

訳ないと思うんですけども、決して、少ない学級、子供たちが少ないのは悪いというわけではありません。そこは知っておいていただけたらと思います。それぞれに良いところがあって、その良いところを生かしながら、学級を営んでいるところですので、そのあたりをご理解いただけたらと思います。

本当に先生方、大変忙しい中で一生懸命、子供たちに関わっています。ただ、その子供たちに関わるのが先生方の仕事ですので、それをしっかりとスキルをつけるようにということで、研修を積み重ねているというところですので、そのあたりは地域の方、それから保護者の方、そして学校が一緒になって子供たちを見守っていただけたらと思います。

8-2. ありがとうございます。その35人になったとしてもその中に、特別支援学級に行かれる子供さんがおる場合は、結局、数的には除外されてくるようなこともありますよね。ですからその人数以上に、減る分以上に元の学級になかったら1クラスの成立というか、2クラスの成立にはならない状態の1クラスだということもあると思いますので、結構ちょっと懸念する状況かなって、支援学級にお世話になる子供さんが増えている時代なので、いつもちょっと人数的には、クラス数はハラハラするのがどこの学校も同じかなあと思っています。

もう1つ最後にちょっと私言っておきたいのは、ここに6年中にやって9年に開校しますというような予定が、時間的なタイムスケジュールが出ていますが、このスケジュールに則ってやらなければならないということではなく、もっと地域の人の意見とか、子供たちの意見とかをしっかりと聞いていただいて、この時間よりも遅くなって始めることもあり得るという姿勢で臨んでいただきたいなと思っていますので、一言付け加えさせていただきます。

(教育委員会)

ありがとうございます。方針、タイムスケジュールの件ですけども、今、出しています方針のとおり何ともしも進めるということではなくて、皆さん意見を聞きながら進めていきたいと思っています。

9. 先ほど区長さんからお話あったように回覧の紙を持ってきました。コピーしました。6月25日に教育委員会から出ています。今日8月3日恋野が最後です。だからこれ、7月24日から始まってからの参加人数を教えてくださいませんか。7月24日には何名。25日何名、26日何名、28日何名、で後、未就学児保護者対象の説明会が7月27日の土曜日、と28日の日曜日ありましたね。それでいかに市民の方々がどのように理解しているか、関心を持ってられるかということが、ある程度わかると思うんですよ。

もう恋野でもこれぐらいバラバラ、うち実績は満席にはなっておりませんが、多い方ですか。私も孫が来年小学校1年生になるんですけども、すごく恋野小学校へ行けるということで楽しみにしています。すみだこども園へ行っていますので、プールも恋野

小学校のプールに行って、大きいプールで夏休み前に、また夏休みになってからでも、プールいいなあと言っているんです。

実は今日、息子にもここへ来るように言っていたんですけども、孫がいるために、お母さん悪いけれども言ってきてと言って。私たちもここ1列、恋野の民生委員なんですけれどもはっきり言います。だからそうやって、恋野で、人権もさせてもらって、いろいろ小学校との関連の事業というんですか、講演会とか、小学校と公民館、人権、民生とかみんなで一体になってやっているんで、できるだけ9年という目標もありますけれども、ちょっといろいろと考えていただいて、もう向こうへ、隅田小学校へ行かんなんていう統合になってしまうというのはもうある程度わかっているんですけども、何かすごく寂しい感じです。恋野小学校なくなってしまうなあ。この学校どうなるんやろな。なんかやっぱり最終は区長さんイベントお願いしたり、綺麗になんかやったほうが良いと違うかなあとか、そんなことを思ったりも考えたりもしています。だから、この参加人数だけだから、ちょっとやっぱり、それがみんなの関心度と私は判断しているんですけども。その辺もやっぱバロメーターでもなかったら、駄目違うかなと思って。ちょっと厳しいこと言いましたけれども、また後日で結構ですので教えてください。以上です。

(教育委員会)

すいません、ちょっと今日は参加者の人数、過去のちょっとデータを持ってきていないので、詳しい数字をお伝えできないんですけど、また後日お伝えさせてもらいたいと思います。

10. 共育コーディネーターで小学校に通っています。子供の意見をまず聞いてないので、私は子供の意見を代弁して、ちょっと想像して言ってみたいと思います。

1年生の子は1人で、覚悟して入ってきました。兄弟がいるから安心して入ってきました。他の学年の子が優しいから入ってきました。その子らが大人の事情で、3年生になったら転校しなくてはいけない。それを子供は納得しているのでしょうか。5年生で転校する子たち、6年生になって修学旅行を新しい子供たちと緊張しながら行く。楽しいと思うかもしれないけど、嫌と思う子もいるかもしれない。子供の意見が全然わかりません。次です。コロナが始まる前に、恋野小学校にへき地教育の勉強として実習生が、大学生2名来ていました。あのときに、恋野小学校もそういう少人数校として続いていくために、こういう子を受け入れて、何か学んでいくのかなと思いました。そういう先生が今も奈良大学とかでいますね。へき地教育ティーチャーという方が見えると思います。ということです。少人数校として、続いていける道はあるんじゃないかと思います。

(教育委員会)

子供の意見、考えと言うのですか、そこは児童生徒さんに直接お話を聞いたりするのはできていません。これちょっと半分想像になってくるんですけど、新しいお友達がどんどん増えるという考え方になるのか。いやちょっと、人がいっぱいとか苦手だというのは、

子供の感性もあって、こちらが勝手に人数が多いからいいよという言い方はできないと思います。

(教育長)

へき地校の先生ばかりが集まる研究会はあります。これは和歌山県内にもありますし、全国にもございます。毎年どこかで研究発表されて、対象になっている学校の先生方はそこに行って勉強したりしてくれています。また、複式の学校の先生が、自分ところの複式の教え方を充実させようということで、主体的に研究している先生に来ていただいて、勉強したり、自分たちが行って勉強したりしてくれています。

それと、学生が来てくれてというお話をされていましたが、今も、和歌山大学がそういう取組をしてくれて、今年度も受け入れたりしています。なぜ、和歌山大学がそういうことをしているかということ、和歌山県内には小規模校の学校がかなり多い県です。ですから、こういった研究を進めていかないといけないというのを使命のもとに和歌山大学がやってくれています。和歌山大学の附属小学校には、わざわざ複式学級を作って実践もしているのはそういったことです。そういったニーズに応えていく関係機関ってというのはありますし、そういったことを学びに行こうという市内の先生方、対象になってる先生方もしてくれております。

現状をどうやったらよくできるだろうかということは、こういった学校再編という提案をさせてもらっていますけれども、現状の中でも努力をしながら、どう子供たちにとっていい教育というのを追求していくのは、学校再編するしないに関わらず、私たちはしていかなければいけないことだと思っています。そこは一緒に取組は進めていきたいと思っています。ご意見ありがとうございます。

(教育委員会)

補足です。事前交流というのも考えていきたいと思っています。それちょっとお伝えしたかったんです。やっぱりいきなりは子供さん、かなり抵抗がありますので、そういった学校の中でその交流を先にするというのも1つの考え方で持っています。以上です。

11. 和歌山大学教育学部のへき地の勉強の子供たち、私の家でホームステイしていただきました。すごく積極的に交流していただいて、本当にそういう少人数の学校で教師をすることの楽しさというか、尊さをすごく実感していただいていたという記憶があります。あと1点ですけど、運営協議会の評議員として提言させていただきました。それは何かというと、いわゆる3年後にそういう統廃合の可能性があることを踏まえて、一度、恋野小学校で、いわゆるホームカミングデー的な、いわゆるコロナのときに学校で活動制限されたような世代があるじゃないですか。今の中学生高校生とか、そういう子供たちも含めて、また、恋野小学校出身の私もそうですけども、やっぱり、30代40代50代60代70代と、いわゆるその恋野地区で恋野小学校出身の方々を、1日、恋野小学校で集ってもらい、大層なことはする必要ないと思うんですよ。100周年記念のときみたいに、だんじり

出して、なんかかんやっていうことはする必要ないと思うんですけども。みんなでそうやって集まり、お茶でも飲んで思い出話に花咲かせて、そういえば、3年後にこういうことが控えているよ、地域の人としてどうするとかというような大きな話をもってもらう場は必要じゃないかということで、学校には提言させていただいています。ただ、その提言がどこまで上がっているのかというのは、正直ちょっと疑問ですし、その時々校長先生の判断によって、そこでストップする場合もあるんで、それがやっぱり先ほど言った運営協議会、共育コミュニティの問題点というのは、どこの学校でもそうだと思います。積極的な校長先生やったら、いややろうってなるし、うーんってなったらしぼんでしまうし、それは決して別に恋野小学校の校長先生がどうのとか言うつもりはないんですけども、やっぱりそういうことはあるんですよ。提言としてはやっぱり出させてはいただいているんで。やっぱり別にそちらの方にもっとアピールしなさいよとか、どんどんどんどん若い人たちに周知して欲しいと言うだけじゃなくて、やっぱり地区としても取り組んでいただいていると思うんですよ。ただそれがやっぱりなかなか1つの連携というか、大きな流れとしてできてないというのがこの地区の問題点でもあるかなと思うんですけども。そういった提言はさせていただいているんで、その点もちょっと耳に入れていただいて、そういった流れが小学校の中で生まれればいいかなという思いです。

(教育委員会)

ありがとうございます。

12. 先ほどお話を伺いました子供の気持ちということに関してです。以前10数年前に大東市で住んでいて、そこで仕事もしていたんですけども、そこでも統廃合の学校が出てきたんです。もう統廃合をやめてくださいという小学校高学年やったと思うんですけど男の子が僕の命を差し出すから統廃合やめてくださいと言うて電車で飛び込んで亡くなったんですわ。でも、統廃合は止まらなかった。だから先ほど事前交流というのを聞いて、ちょっと変わってきて、その子の命も報われたのかなと思いました。

(教育長)

ありがとうございます。やはり子供たちに賛成反対というのは、なかなかいろんなことを理解してもらって、子供にそれを聞くのは難しさがあるとは思っています。けれども子供たちの気持ちをどう自分らがとらえるかということは大切にしなければならないことだと思っています。

もし一緒になるとなっても、これまでのケースで言うと反対に分かれるというようなケースもあったりします。その時は何をするかというと、子供たちに一緒になるんだったらそれまでにどんなことを一緒にしていくかとか、分かれるんだったら、例えば5年生ぐらいで分かれたとします。そしたら、修学旅行一緒に行きませんよね。そしたら、次の年の修学旅行は一緒に行くようにしてやりませんかとか、そういったことで、子供たちの不安とか、これまでの積み重ねてきたものを無くすんじゃなく、子供たちの満足いくような形

で、それを対応していくのが大切なことだと思っています。直接聞くことも大事な部分があるんだけど、結局それをするによって子供たちにいろんなもの背負わしてしまうということは、私自身はさせてはいけないのかなと思っているんです。けれども、聞くことは大事にするし、そのことで取り組めることは事前にいろんなことを取り組んでいかなければいけないと、そんなふうに思っています。

13. 私はこの最初にありました取組の中の適正配置基本方針の検討委員会に参加してありました。その参加するに当たってやったのが、中学校の校長と小学校の校長に会いまして、現状をお聞きして、また、なるべく中学校の運動会、小学校の運動会を見に行こうと、コロナがあって招待されなかったこともあったんですけど、コロナが開けて小学校に参加させていただいて、なるほどええ学校やなあと、いろいろ行事に行くたびに思うんです。中学校にも行きましたけども、ただ中学校で1個、悲しかったのは、運動会に老人の席が昔はあったんですけど、今、座るところは無いですよ。これ炎天下で座るとこも椅子も無かったら帰れということかなと思って帰ってきたんですけど。

ほんで、やっぱり話をする中で、孫が今後、恋野小学校に行く可能性のある人の意見。私の孫も恋野小学校に行ってもええぐらいやけども、娘に聞くと、ちょっと大勢の中で揉まれて、この中にあるようなことで教育を受けさせてやりたいという意見もあったんで、どっちも意見あるんやなあと、これ簡単に決められへんというのが正直なところです。その中で、やっぱり市として考えたら、小学校を運営していく中で、人件費もありますけども、プールの管理、これ大変な金額いますいろいろな問題があると思います。そんな中でもね、やっぱり統合するにしても、3年以内に、この現状見てもうたら、中学校のところから踏切渡って交差点があると、国道が走っていると。これね、小学生やったら絶対に行きますよ。休みの日とかで、普段でも、しんどいからと先に帰ったりとかありますよ。だから、ここをせめてもうちょっと安全に通れるように、行政と一緒に進めてもらえるかなあと。現在、恋野の区長やっていますけれども、統合するにあたって、これをそのままにして、バスで送るからええやんということになったら、隅田の友達のところに遊びに行きますよ、小学生は。これは怖いと思うんです。だからその辺十分考慮されて、進めて欲しいと思います。以上です。

(教育委員会)

確かに踏切から国道まで狭いような状況ではあります。あそこは県道になっておりますので、なかなか市でどうこうはちょっと難しい、踏切もJRのものになるとちょっと難しいところもあるんですけども、まず通学路交通安全プログラムの取組もありますので、いろいろ考えていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

14. 現在、小学校に子供が通っている保護者です。子供たちが長らく小学校にお世話になっていて、もう一番上が高校3年生になりましたので恋野小学校にはお世話になっているんですが。

恋野小学校の雰囲気は今本当に大きく変わってきているのを感じていて、コロナを挟んだってこともあるかなとは思いますが、複式が増えたというのも大きく変わったんですけど、先生の数も、複式が増えた分減った。それによって、先生への負担が大きくなっているのを、凄く先生たちがしんどそうなのを、子供を通わせていて子供たち自身はそんなに思っていない、もうそれが普通だと。今、目の前で起こっていることがもうそれが普通やと子供たちは思っていると思うので、子供たちは困っているかどうかわからないんですが、保護者目線で恋野小学校を見ると、クラスが減った分、子供の数減ったから目行き届いているのかなと思うんですけど、先生一人一人の仕事量が増えていることによって、ちょっと先生、疲れてんなという現状も目の当たりにしている部分があるのでちょっと皆さんの意見と反対な部分もあるかもしれませんが、統合はもしかしたら先生たちの仕事の安心な部分が出てくるのかなという部分を感じているのが正直あります。

先ほどの区長からお話があったように、保護者の中には少人数に通わせたい保護者と、少人数ではちょっとさすがに揉まれてないので、大人数の方がいいという保護者もいらっしゃる中、来年再来年、3年後に統合だというお話が出ている。決定ではないとはいえ、出ている時点で来年再来年、小学校どっちに行こうかと悩まれる保護者がいらっしゃるなか、住所が恋野の場合、向こうへ最初から隅田小に行くことは可能なのかという意見が保護者説明会のときに出ていました。

ちょっとここで、それ以外の意見は、保護者の方々が思っている意見とほぼほぼ一緒の意見を皆さんは言っていたんですが、1つだけ、それだけこの中では出なかったのが、その時の市の方からのお返事として、今のところ校区替えをすることは不可能ではありますが、そこは特別事例として可能になる可能性はあります、ということをお返事いただいたんです。だから保護者の中でも、すごく寂しいと思う保護者と、大きい小学校にこれで通わせられるという保護者と、あとは小学校高学年になってくる保護者の方々はもう関係ないのでもう無関心な方々と、本当に保護者の意見は大きく分かれているので、保護者の方々の参加者はすごく少なかったという現状はあったんですけど、恐らくそういう形で意見が統合でいいから行かないという意見、関係ないから行かない。行く、行かない、いろいろ意見言いたいという、すごく分かれてるなと感じました。

あと現状、恋野小学校はずっと今まで子供たちを通わせていた小学校ですが、ちょっと人数、先生の人数減りすぎて、自転車クラブも現状として続いているので、本当大変そうです。本当にありがたい。時間をさいてやってくださっているのはありがたいんですが、これはきっとしんどいだろうな、先生ほんまにありがとうございますという日々でして、この自転車クラブは、統合の先どうなるのかというのは本当に気になるころではあるんですが、それはちょっとどうなんですかね。負担という部分を考えると、本当に先生たち

がしんどくなってしまうても困ると思う。そんな現状がちょっと恋野小学校で起こっているなど。通わせている保護者からは見えます。

(教育委員会)

ありがとうございます。先生方のことをお気づかいいただいたこと本当に感謝申し上げます。実際おっしゃられたように先生方の数が減っています。複式学級ということになりましたので、先生の数が減るというのはあるんですけども、実際、今、恋野小学校の先生方は全部で19名います。この中には、事務の方、講師の先生も入っています。

その中でなんですけれども、先生方というのは学級数によって決められているのは先ほども申し上げましたが、例えば、先生がたくさんいる学校と、そうでない学校があったとして、1つの運動会をすることになったときに、同じように行事はするわけです。そうすると、準備だとか計画だとか、子供たちの指導だとかというのが全部同じようにあるわけなんです。そうすると当然、先生の数が少ない学校の方が仕事量は増加するのは目に见えてわかるところです。その他にも、先生方は教科、各教科の研究会等というのを、橋本市内また伊都地方でそれぞれ作っているんですけど、その教科の研究会とかについては、全部一律で数があるわけなんです。そしたら、少ない先生方がいる学校の先生方は、幾つも掛け持ちで、やっていくようになる状況も生まれてきています。ですから、やはり先生方が非常に忙しいと言われるのは、そういうところもあるんだということなんです。

その中で、恋野小学校の先生方、一生懸命に取り組んでくださっていると思っています。本当に子供たちに丁寧に関わっていただいているというふうには思っているんですけども、それが、他の学校と一緒になったときには、またいろんなことが分担できるという期待も確かにございます。これは一長一短というんですか、いいところも悪いところもそれぞれにあるかとは思いますが、いずれにしろ先生方は子供たちを導いていくというのが一番の仕事ですので、そこをしっかりとやっていただけたらというふうには考えています。

それから、就学のことですね、来年度再来年度、1年生になろうかとしているお子さんのことで、以前保護者の方にもお伝えしたんですけども、これも法律で決められておりまして、その地域にある指定校に通わせるのが保護者の方の義務になっています。

ですから恋野小学校の校区と決められている中で、そこに住まわれている方は基本的に恋野小学校へ通わせるということになっているわけなんです。今、統合するかどうか、それやったらもう統合先の学校へ先に行かせて欲しいというご要望をいろんな説明会の中でも聞かせていただきました。ただ、やはりその法律というのがございますので、それに基づいて、今年度につきましては、恋野小学校区に住まわれている方は、恋野小学校へ入学していただきたいと思っています。これをもし、このルールを解き放ちますと、仮にですがもしもみんな別の学校へ行ってしまったら、この学校の存続は逆に危ぶまれるということも考えられます。学校運営が非常に支障をきたされるようになりますので、今年度は基本的には恋野小学校の方へ行っていただくというふうになっています。

ただ、そのルールの中で特別に認められる場合がございます。それは、例えば人間関係のもつれで、その学校に行けなくなった場合であるとか、或いは中学校だったら、クラブ活動が自分とこの学校にないから、別の学校でやりたいクラブがあるところに行かせていただくとか、これはあくまでも教育委員会が認めたときということになるわけなんですけれども、別の学校へ行く指定校変更というルールもございます。それだけはお知りおきいただけたらと思います。

それから、自転車クラブなんですけれども、今年度は30連覇で県大会、見事に優勝を続けているということで、本当にこれ伝統のあるすばらしい取組だと思っています。本当におめでとうございます。これにつきましても、子供たちの頑張りがまずあって、そしてそこに付随する先生方の指導、それから地域の方々の支えというのがあってのことだと感じています。今後どうなるかというのは、まだ、私の方から何も言えないわけなんですけれども、また、地域の方や学校といろんなことを話し合った上で、この先を決めていただけたらなというふうに思っています。

実は、恋野小学校の選手たち、明後日、市役所の方へ来ていただいて激励会をさせていただこうと思っております。ぜひ今度、8月7日の全国大会で活躍していただけたらなと、私どもも期待しています。また頑張ってくれることを願っています。以上です。

15. 橋本市外から越してきたものです。皆さんいろんな意見が出てまして、それと重複する部分もあるかと思うんです。このグラフ、さっきから出てる人口が減っていくグラフを見ると、もう今回の合併統合は第一段階であって、その先がまたあるんやろなというふうに思うんですよ。なので、小規模の学校残していきたいという気持ちもあるんですけども、その先人口が減っていくのであれば、だんだん小さくなっていくのはもう目に見えてることなのかなと思っています。なおかつ、その中で、やっぱり子供の意見を大事にして欲しいというのがあって、その小規模少人数でやってきた、そこでいいのか悪いのかは、いろいろあるとは思いますが、子供たちの意見をしっかり聞いてあげて、タイミングに関しては3年以内とか、3年、何年で区切るのではなく、そこをしっかりとまず大事にして欲しいです。今日もいろいろ意見出たと思うんですけど、知らない人がすごく多くて、本人たちに話が届かない、本人たちの意見も聞けない状態なので、そこをまず改善して、子供たちにしっかりと説明する場を作ってあげて欲しいなと思います。その中で家庭の中でもしっかりと話し合いの場を持って欲しいなと思うんですよ。そういう場を用意して欲しいのが1点です。

僕が恋野校区に越してきて、ええ学校やなと思って、魅力があるところやからと思って住んでいるんですよ。なので、その魅力に関しても、実際、地元の方は、なかなか言葉にできないというか、ここがいいから、ここはいいとこなんや、住んでいるんやというのをなかなか言葉にすることないと思うんですけども。家庭内でそういう言葉を伝えていく形にしていかないと、学校というのがなくなったらガサッと若い人が住む魅力がなくなってく

と思うんです。そうなったときに、バスで送ってくれるから、その不便さを引き換えにしてもここへ住みたいんだと思ってもらわないと、人って絶対増えないし残っていけないと思うんですよ。

今日も若い子も何人か来ているんですけども、そういった人たちが、やっぱり恋野はもういいとこやん、住み続けようとなつて、バスで学校には送ってもらえるんやから、もう普段の生活はここを基盤にしようよと、言えるようなところを作っていく。その共有意識を持っていくのも大事なかなと思います。

さっきも話出たように、シティセールス課の方から移住者ということで、このまちの魅力はどうか、先住、移住してきた人としてどうか、みたいなことを聞かれたりします。紹介も受けたりするんですけど、大体住みたい、移住してきたい人は、どっちかというと川の北側より南側、この長閑なというかね、よくある都会の人がイメージする、長閑な田舎に移住したがるんですけど、そこのマッチングというところが市の中でできてない。当然、地元の人からしたら全然知らん都会の人が越してきてもらっても、ちょっと怖いところもあったりするんやけど、そこは行政にサポートをしてもらって、移住してもらって、定住してもらえるようにサポートの仕方が、もうちょっと何かあるんじゃないのかなと思うんです。そののところをお願いしたいなと思います。

(教育委員会)

貴重なご意見ありがとうございます。部を跨ぐ形にはなるんですけど、いただいたご意見を経済推進部、総合政策部と共有させていただきたいと思います。

※意見書の提出はありませんでした。